

令和4年9月26日



学校運営協議会委員 各位

学校運営協議会長 大野 周一
三ヶ日東小学校長 山田 芳和

令和4年度 第22回 三ヶ日東小学校運営協議会 開催について

このことについて、下記のとおり開催します。つきましては、関係各位には御出席をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

1 日 時 令和4年10月24日(月)15:00～16:30

2 会 場 浜松市立三ヶ日東小学校 大会議室

3 内 容 (1)会長挨拶

(2)熟議

①学校サポーター、学習支援に関すること(竹下)

②登下校見守りジャケット等及び街頭指導マップについて(P T A)

③学校創立150周年記念について(教頭)

④学校評価アンケート項目について(高島)

⑤その他

4 その他

(1)御欠席の場合は、10月14日(金)までに、三ヶ日東小教頭 中村に御連絡ください。

(2) その他、本件に関して御不明な点は、以下担当へ御連絡ください。

担当(連絡先)

浜松市立三ヶ日東小学校 高島 博

CSディレクター 鈴木 康二

TEL 526-7034

mikkabihigashi-@city.hamamatsu-szo.ed.jp



第 21 回 三ヶ日東小学校運営協議会

2022. 6. 2

浜松市立三ヶ日東小学校 会議室
進行:学校支援CD (楠)

1 会長挨拶

2 熟議

議長：石原

(1)学校サポータ、学習支援に関すること (竹下)

(2)登下校見守りジャケット等及び街頭指導マップについて (PTA)

(3)その他

3 その他

(1)次回議長の選出

(2)年間予定

- ・第22回 10月24日 (月) 15:00~16:30
- ・第23回 1月26日 (木) 12:10~15:40 (給食試食)
- ・第24回 2月20日 (月) 15:00~16:30

令和4年度 学校評価アンケート質問項目

- ☆ 児童アンケートは、昨年度同様、1学期末、2学期末の2回実施する。
保護者アンケートは、年間1回（2学期末）とする。

児童アンケート

- 1 じゅぎょうは、わかりやすく、たのしい。
- 2 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえをもち、すすんで、とりくんでいる。
- 3 じゅぎょうでは、分からないことや、できないことに、ねばりよく、とりくんでいる。
- 4 じゅぎょうでは、そのじかんでまなんだことを、ふりかえり、つぎのがくしゅうに、いかしている。
- 5 じゅぎょうでは、いろいろなせんせいに、おしえてもらえて、たのしい。
- 6 まいにち、「10分×^{ぶん}学年+10分」の、かていがくしゅうに、とりくんでいる。
- 7 もくひょうをもち、がっこうの、いろいろなかつどうに、とりくんでいる。
- 8 がくしゅうや、せいかつのルールを、まもっている。
- 9 タブレットをつかうときは、やくそくやルールをまもってとりくんでいる。
- 10 そうじは、こころをこめて、いっしょうけんめい、とりくんでいる。
- 11 たてわりはんでの、かつどうを、なかよくやっている。
- 12 ちいきのひとやせんせい、ともだちに、あかるくげんきにあいさつしている。
- 13 たいいくのじゅぎょうや、ひるやすみ（ぜんりよくタイム）に、いっしょうけんめい、うんどうしている。
- 14 じぶんにできることをして、けんこうにきをつけている。
- 15 がっこうに、かようのは、たのしい。
- 16 いじめをするひとは、いない。
- 17 わたしは、しょうらいのゆめやきぼうを、もっている。

保護者アンケート

- 1 子供は、学校行事や集会活動の様子から、人との関わりを大切にしている。
- 2 学校行事や集会活動の様子から、子供の主体的な取り組みが見られる。
- 3 学習や生活、学校行事の様子から、子供はうまくいかないことがあっても諦めず、粘り強く取り組んでいる。
- 4 子供と将来の夢や希望について話をしたことがある。
- 5 参観会や運動会などの学校行事に参加しようとしている。
- 6 子供の家庭学習の状況や学習時間を把握している。
- 7 インターネットの使い方について約束を決めて、見届けている。
- 8 子供の問題や悩みがあった時、個別面談や本読みカードなどを利用して、学校・担任に相談しようとしている。
- 9 学校便りや学年便り、ブログなどを読み、学校のこと知ろうとしている。
- 10 教科担任制により、多くの先生方に教えてもらうことのよさを理解している。
- 11 コロナ感染症等により子供が登校できない場合、リモートでの学習参加ができることのよさを理解している。

☆アンケートは選択式 そう思う だいたいそう思う
 あまりそう思わない そう思わない

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（三ヶ日東小学校）

1 調査の目的

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われている。全国の小6と中3を対象とし、国語、算数、理科の3教科及び児童質問紙調査で構成されており、本校においても6年生が4月の一斉調査日に取り組んだ。本調査の結果は、学力評価や判断資料の一つとして活用し、今後の学力向上に役立てていく。

2 三ヶ日東小の結果の概要

本校は、3教科ともに正答率が全国平均・県平均を大幅に上回っている。生活習慣や学習環境、意欲の面でも、概ね、全国平均・県平均を上回っている。

調査教科	全国平均との比較	静岡県平均との比較
国語	◎	◎
算数	○	◎
理科	○	◎

◎ 大幅に上回る
○ 上回る
— 平均同等
▽ 下回る

(1) 国語科の結果より

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」についての思考力、判断力、表現力の観点が県や全国平均をかなり上回っている。知識及び技能についての観点も上回っている。
- ・「したしむ」という言葉を漢字に直す問題が、2割程度無回答で、正答率も低い。

(2) 算数科の結果より

- 評価の観点である「思考力、判断力、表現力」が県や全国平均をかなり上回っている。知識及び技能についての観点も上回っている。
- ▽「変化と関係」の領域の問題についての正答率のみが、県や全国平均を下回っている。百分率で表された割合と規準量から比較量を求める問題（果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの果汁の量）や数量が変わっても割合変わらないこと（果汁が含まれている飲み物を半分にした時の果汁の割合）、比例の関係を用いる問題（果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの飲み物の量）ができていない。

(3) 理科の結果より

- すべての領域や観点で県や全国平均をかなり上回っている。
- ・ 生命に関する領域で、昆虫の育ち方と食べ物について提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつという問題の正答率がやや低い。また、エネルギーに関する領域で、実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる問題についても正答率がやや低い。

(4) 児童質問紙（生活習慣・学習環境・学習意欲等を尋ねる調査）の結果より

- 毎日、朝食を食べている割合が高い。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだという認識がある割合が高い。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている割合が高い。

- 友達と協力するのは楽しいと思っている割合が高い。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた割合が高い。
- 読書が好きだと答えた割合が高い。
- 地域の行事に参加している割合が高い。
- 地域や社会をよくするために、何をすべきか考えたことがあると答えた割合が高い。
- 国語や算数の勉強は大切だと思う割合が高い。
- 国語や算数で学習したことは、将来、役に立つと考えている割合が高い。
- 授業の中で PC やタブレットなどの ICT 機器を毎日使っている割合が高く、県や全国平均の倍の値である。友達との意見交換や発表の際の使用についても割合が高い。
- ・ 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、先生に聞くと答えた割合が 2 割で、県や全国平均よりやや低い。

3 本校の今後の取り組みや展望

国語科の学習では、書くこと、読むこと等の思考力、判断力、表現力についての力が付いてきていると考えられるので、国語科を中心に、継続して各教科やその他の教育活動でも指導をしていく。自分の考えや理由を明確にし、文章で書き表したり相手に伝わるように発表したりする場を多く設定していきたい。また、漢字やローマ字を正しく読み書きする力が定着するよう、反復練習を行うとともに、既習の漢字を用いて相手の読みやすさを考えて文章表記をするという意識付けをすべての教科で行っていきたい。

算数科の学習では、「式と計算」「データの活用」についての力が付いており、国語科と同じように思考力、判断力、表現力の観点も高い。ただ、割合や比例関係の問題を苦手としており、「変化と関係」の領域だけでなく、すべての領域においても既習事項をしっかりと定着させ、様々な問題に理論的に粘り強く考える力を向上させていきたい。

理科の学習では、どの領域についても力が付いてきている。今後は、観察、実験の結果を自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるように、毎時間の授業の中で、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に問題を見いだす場面を多く設定していきたい。

児童質問紙では、設問に肯定的な回答をする児童が多く、朝食摂取率をはじめ、就寝や起床時刻も決まっており、家庭の支援が行き届いていると考えられる。読書や地域の活動への参加の意欲も見られ、前向きな気持ちで生活ができている。また、学習については、国語や算数等の勉強の大切さについて肯定的に捉えている子が多い。自分が学習していることを生活の中で生かしたり、将来に役立てたりしていきたいと考えている子も多く、キャリア教育で付けたい力が付いてきている。

「自分にはよいところがある。」「先生はよいところを認めてくれる。」「将来の夢や目標がある。」等の肯定的な回答が高いのは、学校や家庭で一人一人の子供の存在がしっかりと認められていること、一人一人が大切にされていることの表れであると考えられる。今後も、間違いや失敗を許し合って助け合う、温かい雰囲気がある学級づくりを推進し、児童が分かる楽しい授業づくりにより一層力を入れていきたいと考える。また、分からないことを担当教員に進んで聞くことができる雰囲気づくりにも努めたい。

〈文責 教務主任 高島 博〉